

岩城光英の永田町だより vol.245

11月も半ばとなりましたが、今年は暖かい日が続いております。

国会では、衆議院・参議院の予算委員会審議が行われ、テレビ中継をご覧になられた方も多いかと存じます。

私も、11月15日に質問に立ちました。その日、我が党からは4人が質問を行いました。私は、復興について（帰還時期・除染対策・道路整備・豪雪災害・復興庁・自転車の活用）、賠償について（中間指針・避難生活者の精神損害賠償・仮払い基金法案・私立学校・たばこ耕作者・水産業）、命と健康（ガラスバッジの測定評価と指導体制・20km圏内の家畜）という3つの課題に分けて、政府の見解を質しました。この内容は、近々、私のホームページ上でご報告いたします。

福島では、放射性物質の除染・除去が、復興へ向かう大きな課題となっております。英知を結集して、除染を行い、様々な業種で“2次的被害”となっている「風評被害」を収めなければなりません。

さて、今号では、小名浜港も含まれている、港湾整備についてお知らせいたします。

「国際バルク戦略港湾政策について」

「Bulk（バルク）」とは、流通・海運用語で、“ばら荷、ばら積み貨物”という意味です。たとえば、バルク・キャ

国際バルク戦略港湾の目指すべき姿について(石炭)



リアと言え、ばら積み貨物船の意味です。

国際バルク戦略港湾の目的は、大型船舶の活用等により、アジアの主要港湾と遜色のない物流コスト・サービスを実現し、資源・エネルギー・食糧等を安定に供給すること。また、その目標は、2015年までに、現在主力となっている大型船が満載の状態に入港（岸壁深度や埠頭運営）できるようにし、2020年までに最大級の輸送船舶の満載入港に対応する、となっております。東北地方では、石炭の拠点港として小名浜港が選定されております。大震災により原発が停止し、火力発電の依存度が高くなる今後、震災復興の意味合いも重ね合わせ、整備促進に努めてまいります。

「京」

北野湘南

日本の開発したスーパーコンピュータ京（けい）が、世界最高速度の能力を持つことが証明された。世界で最も早いスピードのスーパーコンピュータ開発を巡っては、民主党の仕分け作業で「世界第2位では駄目か」とされ大幅な削減寸前となった。京の予算は世論の厳しい批判から僅かな削減に止まったことから京は世界トップとなれた。しかし、仕分け作業で基礎科学関連の予算は、大幅に削減され技術立国・日本の行方に暗雲が漂い始めている。

京の計算速度は1秒間に1億の1億倍。コンピュータの専門家以外にはどれほど早いのか見当もつかない。だが、最先端の医薬品開発、地球環境等のシミュレーションや調査・研究には無くてはならないどころか、これより高速のスーパーコンピュータを必要としている。このスパコンを手に入れた国が、最先端の科学技術分野で世界のトップを走ることになるから米国、ドイツ等のヨーロッパだけでなく最近では中国もこの競争に加わっている。こうしたことから日本のコンピュータ開発チームも必要な予算獲得をめざしたが、民主党の仕分け作業で「世界トップでなくても良い」どころか「2番では駄目か」とされ、大幅な削減を通告された。このままであったら京の開発が、大きく遅れて2番さえ危なかった。

しかし、科学技術予算に対するあまりにも無知な発言が世間から大ひんしゆくをかい、僅かな削減に止まった。これが世界トップに輝く要因になっており、首の皮一枚の際どいところだった。だが、京のように世間の注目を集めたものは、削減幅は抑えられたが、その他の分野では大幅に

削減された。「日本の技術の高さを内外に示した」と、世界から絶賛された宇宙探索機「はやぶさ」の予算は、次の機種の開発の目途が立たないまで削られた。中国は、有人宇宙船の開発を目指しているが、はやぶさが宇宙のゴマ粒にも満たない小惑星から、惑星の成り立ちを解析できる物質を持ち帰ったのは有人宇宙船の開発よりも高度の技術とされる。この技術を絶やすことが、どのような意味を持つのか民主党には全く理解できないようだ。

新聞には殆ど掲載されなかったが、仕分け作業が終了して間もなく東大、京大などの国立大学から早稲田、慶応など全国の大学理学部長が連盟で「日本の将来にもっとも重要な基礎科学分野の研究予算が、一般会計と同じ基準で削減され、このままでは科学技術立国日本は危ういどころか崩壊する」との緊急声明を発表した。旧帝国大学クラスでも基礎科学分野の予算が大幅に削られ、中でも地方国立大学では完成寸前の極めて有益な研究を中止せざるを得ないケースも相次いでいる。

日本は、21世紀をリードするとされるナノテクノロジー分野で世界トップを走っている。ナノテクは100万分の1グラム、1ミリの精度でモノを作る技術だ。日本が、世界トップを走っているのは地味な基礎研究が背景にあるからだ。この基礎研究があるから2000年以降10人もノーベル賞の受賞者を出している。自動車、ロボット、環境関連等の先端作業で世界トップ座を維持しているのもナノテクの技術があるからだ。自民党が、早い時期に「国家百年の大計」として科学技術立国の方針を打ち出し、これが今の日本経済を支えている。民主党に任せていたら科学技術立国日本の未来は無くなるだろう。